



Title	中国研究集刊 月号（第10号） 田竜通信/奥付
Author(s)	
Citation	中国研究集刊. 1991, 10
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61054
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

田竜通信

*本号執筆者紹介（執筆順）

田仲 一成

東京大学教授

串田 久治

愛媛大学助教授

矢羽野隆男

東吳大学（台灣省）副教授

朱 廣興

京都教育大学等非常勤講師

寺門日出男

大阪大学大学院学生

南 昌宏

大阪大学大学院学生

加地 伸行

大阪大学教授

*今号をもつて本誌は十号となる。これを機会に組織化し、会員のみの購読制とし、店頭での販売は停止した。ただし、大學・研究機關に対しては、送附先を大幅に整理して寄贈を続ける。創刊号から九号に至るまで、進んで寄附してくださった左記の方々（敬称略・五十音順）や、また、早く会員制にしてほしい、会費を払いたいという申し出をしてくださった多くの方々があり、その御好意に心より感謝申しあげる。

岩佐昌暉 神楽岡昌俊 金谷治 合山 究 静 慎円
庄司莊一 高見寛信 野村茂夫 橋本高勝 森美佐尾

吉永慎二郎 林 宏作 若槻俊秀

*本号は左記の法人・機関の御寄附によって刊行することができた。心より感謝申し上げる。

日本生命相互保険会社

儒教文化研究振興会（敬称略・五十音順）

会員

浅井光二

板倉行央

金根 勝

田島 一

平沼辰男

林 国晴

林 国泰

儒教文化研究振興会（世話人：板倉行央氏）は、平成二年八月に設立した。本中国哲学研究室の諸活動（本誌刊行など）に対する支援団体である。われわれ研究者にとって、たいへんありがたい後援者である。企業の寄附と言えば、目に見える演劇や音楽や美術や探検といった領域に対して行なわれることが多い。しかし、世の中には具眼の士があり、学術研究という、まったく人目につかない地道な分野への援助を快諾してくださった。もちろん、なんの見返りも期待しておられない。またわれわれの諸活動は実利を提供するものでもない。相互にあるものは心意気である。

本年二月二十六日に懇親会があつた。

*研究室の異動。助手の寺門日出男は、三月三十一日に二年の任期を終えて退職した。四月一日より、京都教育大学等の非常勤講師を勤めながら、一劍を磨く。後任助手として杉山一也（大阪大学大学院学生）が四月一日をもつて就任した。

在籍者は、大学院学生五名（後期課程二名、前期課程三名）、学部学生二名、研究生一名。

なお、客員研究員の于時化氏（山東社会科学院儒学研究所副研究員）は、滞在を一年延長することとなり、引き続き研究生活を継続する。

* 研究室出身者の異動。四月一日をもって、北村良和氏（秋田大学）が愛知教育大学助教授、吉永慎一郎氏が秋田大学助教授として赴任した。

* 今年度の学外非常勤講師は、内山知也・大東文化大学教授、安本博・愛知大学教授、岩佐昌輝・九州大学教授、富永一登・大阪教育大学助教授、山口久和・大阪市立大学助教授、黄當時・佛教大学専任講師である。

学内は、併任として、福島吉彦・教授、深沢一幸・助教授が大学院を、坂内千里・専任講師が学部を担当している。

* 朱廣興君はめでたく就職がきまり、帰国することとなつた。本研究室に正式に在籍したわけではないが、私としては長いつきあいを振りかえると、本研究室の出身者のように思える。帰国後の大きいなる活躍を期待してやまない。同君は、将来必ず、中国人の手による、中国人の言語意識に基づいた中国語文法を体系化するであろう。それが眞の民族的自立である。そういう意欲に燃えた研究者を世に送り出すことができて私は本当に嬉しい。

（加地伸行）

中国研究集刊 月号（1991年6月10日発行）〔総第10号〕
発 行 大阪大学中国学会
編 輯 大阪大学文学部中国哲学研究室
加 地 伸 行
郵便振替口座番号 大阪 6-34413 中国研究集刊